

## グループワークにおける望ましいメンバー構成

廣瀬もえ (兵庫県立北摂三田高等学校)

### はじめに

学校生活や仕事ではグループで協力する場面が多くあるが、グループがまとまらず、うまく進まないことがある。グループのメンバー構成を工夫すれば、より効率的な議論ができるのではないかと思い、このテーマを選んだ。この研究では、「役割を重視したグループ」と「交友関係を重視したグループ」のどちらが効率的に問題解決を図れるかを調べ、望ましいメンバー構成の特徴をつかむことを目標とした。

### 調査方法

#### ① 対象クラスへのアンケート (実験前)

対象：探究活動でディベートの準備を行っている1クラス

(内容) 自分の役割、他の人の役割、交友関係に関するアンケート

#### ② グループ分け

アンケート結果から、一人ひとりの適性と交友関係を推測し、役割重視のグループ2つ

(役割内訳：リーダー1人、ファシリテーター1人、書記1人)、交友関係を重視したグループ2つ、ランダムにメンバーを決めたグループ4つに分けた。各班5人配置。

以後、適性重視1, 2 交友関係重視1, 2 ランダム1, 2, 3, 4 とする。

#### ③ 実験

ディベートに向けた準備を各グループで行った。グループワークをしている間、実験者は外から観察した。

#### ④ 対象クラスへの自己評価アンケート (実験後)

以下のアンケート内容に、はい、少し、いいえの3つから選び解答し、はいを3点、少しを2点、いいえを1点とし、数値化する

(アンケート内容)

- ・自分の意見や情報を共有できたか
- ・班員の意見や情報を聞くことができたか
- ・班で役割分担をして、一人ひとりが責任を持ったか
- ・自分の意見や情報を共有することができたかなど

#### ⑤ 役割重視の班と交友関係重視の班の比較

自己評価アンケートと実験者による観察結果から役割重視の班と交友関係重視の班を比較した

#### ⑥ 効率的な班の特徴分析

自己評価アンケートの得点が高かった班の特徴を、自己評価アンケートと実験者による観察結果から分析した

## 結果と考察

自己評価アンケートから、多くの班が班で役割分担をして一人ひとりが責任を持ち、明確な目的が共有できていた。しかし、班での意見共有に関しては、図1・2から、交友関係重視2が他の班より優れていた。同じ交友関係重視の班同士でも得点に差が生じたことは、交友関係重視1には実験前アンケートでリーダーに推薦された人がいなかったことと、交友関係重視1は一对一の会話が多かったが、交友関係重視2は班員全員に対する発言が多かったことが関係すると推測できた。友人同士の班でも、リーダーがいなければ話しやすい雰囲気を活かした意見共有ができないのではないかと考えた。

交友関係重視の班と役割重視の自己評価アンケートの合計得点を比較すると、交友関係重視の班のほうが役割重視の班より点数が高かったが、大差ではなかったため、効率的なメンバー構成の特徴をはっきりとつかむことができなかった。

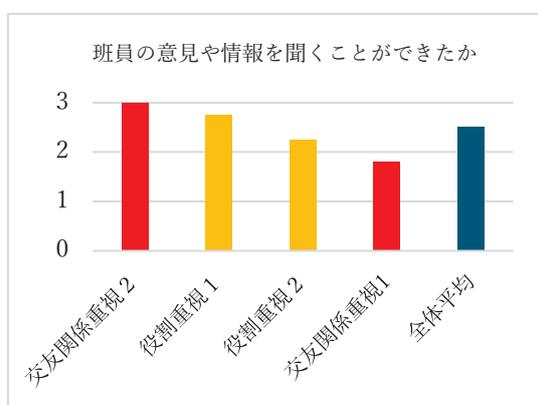


図1

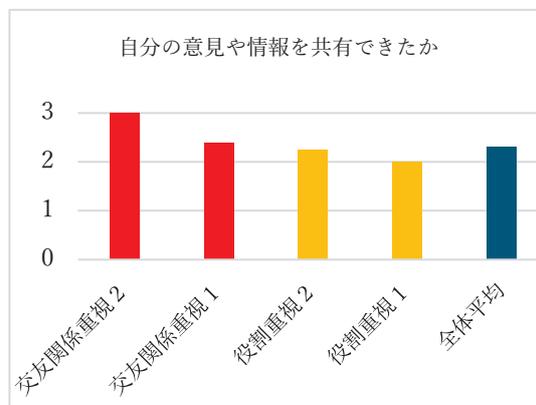


図2

また、すべての班の合計得点をみると、図3より、ランダム2と3の点数が特に高かったことが分かる。この二つの班に共通することは、班員のほとんどが、実験前アンケートでリーダー、ファシリテーター、書記のどれかの役割に推薦された人(≒積極性のある人)だったということ。ただし、この結果から役割を重視したほうが望ましいとは言えない。なぜなら、リーダー、ファシリテーター、書記がそれぞれ何人もいたので、リーダー、ファシリテーター、書記を一人ずつ配置する役割重視の班とは異なるから。

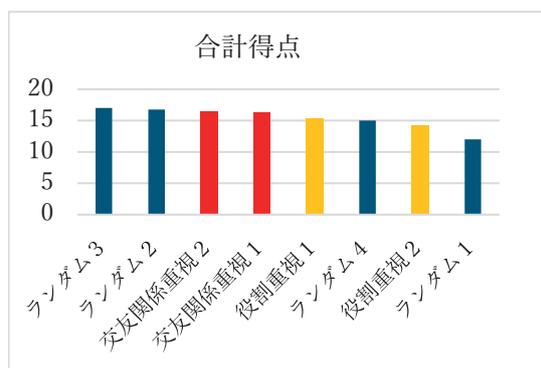


図3

意見共有ができていた交友関係重視2と、その次に多くの人ができたと答えたランダム2の班の共通点は班員全員に対して発言を投げかける人がいたこと。

これらの結果から、望ましいメンバー構成を作るには、積極性のある人を多く集めるか、リーダーの適性がある人を配置した交友関係のあるグループを作ることが効果的だと分かった。